# コンピュータネットワークの発展

ネットワークの基本概念

最近は、ネットワークという言葉が日常的によく**使われてます**。大企業では、オフィス内の**コンピュータ**どうしを接続して、データをやり取りできるようにすることで、業務効率化を図れるようなネットワークシステムを利用しています。

用途としては･･･

* 大規模データベースの利用
* データの共有

などが挙げられます。これらはローカルエリアネットワーク（LAN：Local Area **Netwolk）**と呼ばれ、現在のコンピュータネットワークの基本概念であり、中小企業、個人経営のオフィスでも広く利用されています。

パソコン通信とインターネット

LANどうしをさらに広い領域にわたって接続し、世界規模のネットワークとした "インターネット" は、現代では多くの人が利用しています。当初は、ワークステーションと呼ばれる高性能な**コンピュータ**が使われ、その基本ソフトウェア（OS）も、UNIXという高度な知識を必要とするものでした。当初は、大企業や学術機関でしか利用できない状態にありました。パーソナルコンピュータ（PC）利用者には、それに代わるものとして、パソコン通信というものを利用していました。電話回線を使ってパソコン通信サービス業者のホストコンピュータに接続し、電子掲示板や電子メールを利用し、会員どうしが情報を共有、送受信を行うことができます。

パソコン通信からインターネットへ

1995年のWindows95の発売により、初心者にも扱いやすい操作性（GUI：Graphical User **Interfase）**になったことで、PCの利用者が飛躍的に増えました。ハードウェアの進歩により、低価格で高性能のPCが次々に発売され、それに**つず**いて携帯に便利なノート型PCが登場したことも大きな要因の一つです。

Windows95の登場により、PCにもインターネットが身近なものになりました。始めからインターネットに接続するための機能を備え、インターネットサービスプロバイダと呼ばれる業者と契約すれば、家庭から電話回線経由でインターネットと簡単に接続できるようになったのです。

SOHOからホームラン（Home LAN）へ

現在のPCは、LANのための機能を標準で備えているものが多く普及しています。今、話題となっているSOHO（Small Office/Home Office：少人数の企業や個人の仕事場などの小規模なビジネス形態のこと）ところでなく、普通の家庭でも、複数のPCがあれば、LANの環境を構成できます。そして、電話回線（ISDNなどの高速回線を含む）を利用してインターネットに接続すれば、世界中につながったコンピュータネットワークが実現可能です。